

12 地域の発展のために一生を捧げた西加積村長

黒田 義平

生没年：嘉永4年（1851）～大正4年（1915）

黒田義平翁之像 徳無常師主善為師



「下梅沢郷土史」(下梅沢郷土史編纂委員会、1997)より転載



所在地：下梅沢（私有地内）
建立年：大正7年（1918）
再建年：昭和56年（1981）
護 書：後藤 新平
撰 文：岡田 正之
原 型：中野 双山（旧像）



黒田義平は下梅沢（現滑川市下梅沢）生まれ。家業の酒造業の傍ら、若くして下梅沢村戸長になり、明治22年に西加積村が発足すると初代村長に就き、亡くなるまでの26年間、職にあり続けた。この間、富山県会議員や中新川郡会議員も務める一方で、教育の普及、道路改修や堤防修築といった土木事業、稲作の改良、村の基本財産を造成するなど、村の発展に尽くした。これらの取り組みによって、西加積村は明治44年に内務省から「優良町村」に選奨されている。

大正7年に黒田の功績を称えるべく銅像と石碑を仏願寺境内に建立したが、太平洋戦争時の金属類回収令により昭和19年に銅像は供出。しかし昭和56年、現在地に胸像が再建された。

「徳無常師主善為師」とは、「徳に^{とく}常^{じょう}師^し無^なし、善^{ぜん}を主とするを師と為す」と読み下す。「徳というものに決まった先生はない。善を主とする人を師とするのである。人の性質の学ぶべき点や善行を見て、それを手本として真似するだけでも徳は高まっていくのである」という意で、『書経』の「咸有一徳」からの引用である。